

[illegible]

コンゴのコバルト鉱山で何が起きている？

ヘルメットといった安全装備もなく坑道で働く鉱山労働者
©Amnesty International and Afreewatch



命を削る鉱石の手掘り

手で掘り進められる鉱山は数十メートルの深さで広がっていますが、補強されていない坑道は落盤しやすく、換気が不十分のため窒息の危険もあります。事故の発生頻度は高く、ひと月に5人の労働者が死亡している計算になります。事故の多くは公表されないの、正確な数字はわからず、遺体はがれきに埋もれたままです。

こうした危険な採掘現場で、労働者は手袋や作業着、フェイスマスクなどの安全装備もないまま、長時間働いています。コバルトの粉塵による肺や呼吸器の疾患、皮膚炎といった健康被害も深刻です。運び出された鉱石を素手で選別、洗浄する子どもたちや女性たちの身体にも影響が出ています。

コンゴ政府による労働安全管理の対象となる手掘り採掘認可区域が限られているため、多くの労働者は無認可区域で採掘しており、こうした労働者に対しては装備や有害物質の危険性についての指導はありません。

コンゴの採掘現場で働く子どもたちは4万人といわれており、その多くがコバルト採掘に関わっています。子どもたちは鉱石を集め、選別、洗浄、粉碎し、自分の体重より重い鉱石を運ぶ作業に携わっています。1日12時間働いても報酬はわずか1～2ドルです。

人口の3分の2が貧困層のコンゴ。子どもたちは、親に決まった収入がないために働かざるをえず、学校に通っていても、学費のために始業前や放課後、週末などに鉱山で働いています。コンゴ政府は、無償の義務教育として、すべての子どもに初等教育を提供するとしていますが、財源が不十分のため、教員の給与や制服代、教材費を、毎月請求する学校もあります。

子どもたちの安全と健康を脅かす採掘現場での労働は「最悪の形態の児童労働」とされており、コンゴ政府は国際機関やNGOから、児童労働をなくすための対応が不十分であると批判を受けています。

危険だらけの鉱山で働く子どもたち



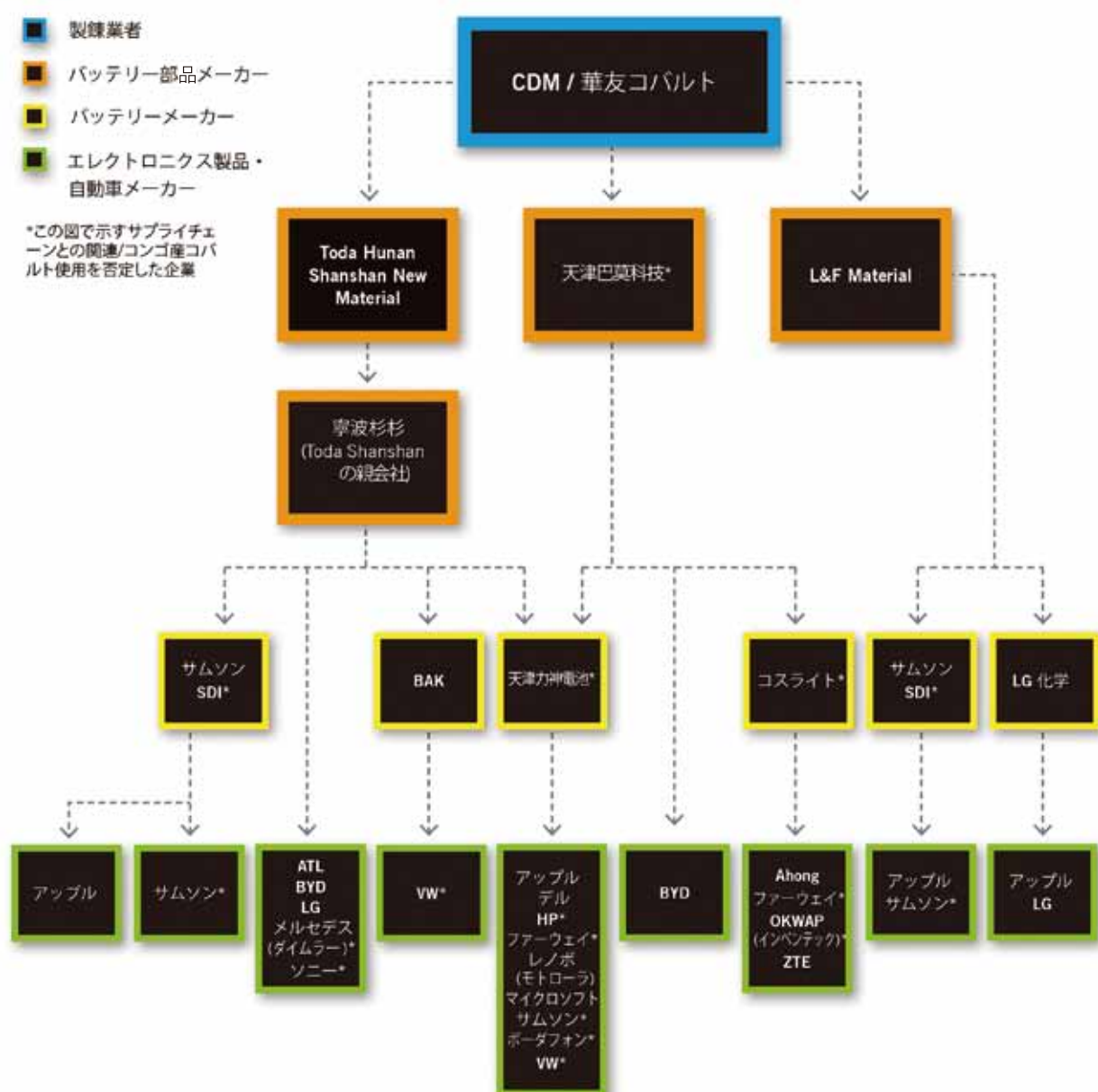
コバルトの粉塵が舞う中、鉱石の選別をする子どもたち
©Amnesty International and Afreewatch

鉱山労働者の権利を守るためには？



コンゴ産コバルト調達の可能性のあるサプライチェーン

公開情報より作成



すべての国と企業が尊重すべき人権の国際基準となっているのが、2011年6月に国連人権理事会で採択された「ビジネスと人権に関する指導原則」です。この指導原則では、国は人権を保護する義務があり、企業は、サプライチェーンを含むグローバルな事業活動において、人権を尊重する責任があるとしています。また、国も企業も、人権侵害が起きた場合には、救済措置をとることが求められています。

人権侵害から人びとを守る政府の義務

コンゴ政府は、無認可の採掘区域を管理し、すべての手掘り採掘者に対して、労働安全対策を実施しなければなりません。労働基準が守られるようにモニタリングをして、労働法の実施を強化することが急務です。また、最悪の形態の児童労働をただちになくし、すべての子どもたちに無償の義務教育として初等教育を提供する必要があります。児童労働で学校に行けなくなった子どもたちが教育システムから取り残されないようにしなければなりません。

サプライチェーンに関わる企業の責任

国連の指導原則では、企業は、自社が人権に及ぼす悪影響を特定し、それを未然に防ぎ、影響を及ぼした場合にはそれを軽減するための「人権デューディリジェンス」を行うことが求められています。コバルトのサプライチェーンに関わる企業は、デューディリジェンスを実施し、その情報を公開する必要があります。サプライヤーや政府機関といった関係者と連携し、人権を侵害された人びとを救済していかなければなりません。